

タキシードの思い出

森 泰吉郎

二十年前池田内閣成立後のある日、愚妻があるデパートで小生用の服にとグレー霜降りを新調した時、店員から「この生地はただいま大平官房長官の奥様からもご用命いただきました」とのこと。当時、先生は「寛容と忍耐」の造語を始め帷幄の活躍振りで世の話題をさらっておられたし、それも大学同窓とあつて、特別の親愛感を覚え、わが家ではこの服をいつしか「大平さん」と呼んで愛用した。

そして新聞、テレビなどで、茫洋たる風貌とアーウー調の奥に秘められた繊細な神経に接して、ひきつけられていたのである。

こんなたわいのない一方通行の出会いから約十年。大平先生を囲む会の一つの末席を汚してからの、私の得た感想を申し上げたい。妄言多謝の上、一言にして申し上げれば、先生は政治家として気宇の壮大さにおいて、随一だったと存ずる。

先生のご関心事は、文化百般であり、長期的視野と地理的広がりであり、理想と信念を持たれて、人間の、また国民の幸福のために、総合的、自然的に時を選んで調整指導されることだったと思う。そのため先生は、常に大所高所の判断を尊しとされ、日夜身を挺して努力傾注されたご生涯だったと思う。

巷間往々にして態度不鮮明、分かりにくい、優柔不断とかの誤解曲解の類があったが、それは、目先短期的、不確実不確定的または要秘性等に対し、実に毅然として慎重に処せられたからだったと思う。従つて時に率先表

明されるご意見には千鈞の重みを感じられたし、これらをつなぎあわせて私なりに系統化すると、先生のお考えは誠に鮮明でわかりよいものだった、と存じあげている。

最後に、私の職業柄、お忙しい先生にご無理ご迷惑を願って、ビルの開館披露などにご列席いただくことがしはしばであった。思えば昭和四十八年秋、25森ビル開館の時は、ソ連、欧州の大事な外交旅行で日程も延長されたので、あきらめていたら、森田さんから必ずご出席下さる連絡をいただき、細やかなお心遣いに痛く感激したのであった。

また、「ラフォーレ原宿」を開いた節は、例の自民党総裁選の直前でもあったが、ファクションビルという私どもにとつて新しい事業への試みに、私もタキシードなど新調して緊張して先生をお待ちしていると、先生も結婚式からの帰り道でタキシード姿のまま直行して祝辞を述べて下された。

「こんな姿でどうかと思つたが、森さんも生まれて初めてらしいタキシード姿なので私もホツとした」と、ユーマアあふれるスピーチで皆を喜ばせて下さった。

それから数日後の自民党の総裁選で次期総裁に当選された日の、たまたま二十三日の大栄会は、先生も会員一同も喜びを秘めながらもいつもとは何かちがつ、かたいかしこまった調子で始まつたが、やがてほぐれてくるうちに、先生は「森さんがファクションビルをやることを思えば私が総理大臣になつてもおかしくないでしょう」といわれた。そのお言葉が今なお私の脳裡から離れない。

(森ビル社長)